



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



年頭にあたり

歯学部長 宮崎 隆

新年おめでとうございます。皆様、良いお正月を迎えられたことと存じます。

昨年は東京工業大学の大隈良典栄誉教授がノーベル医学・生理学賞を受賞しました。日本人として2年連続の医学・生理学賞受賞であり、国民に元気を与えてくれました。日本の基礎研究が評価されるのは喜ばしいことであり、各大学・研究機関において研究の活性化が望まれています。



本学は医系総合大学として社会に貢献する医療人の育成を旗頭に、教育と診療に力をいれていますが、次世代の臨床を支える研究や国民の健康に還元する研究の遂行は大学の使命です。

学長のリーダーシップで競争的研究資金の獲得を推進してきましたが、昨年度は文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に採択されました。これは文科省が学長のリーダーシップのもとで全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学を支援する事業で、昨年度の目玉の事業でした。この中に主に地方大学が地域の発展に寄与するタイプ A (社会展開型)と先進的・学際的な研究拠点の整備をするタイプ B (世界展開型)があり、本学はタイプ B に申請したものです。約200校から40校が選定されました。「医系総合大学の実績を基盤とした生体内レドックス制御機構解明と臨床応用:健康長寿に貢献する大学創成」という事業名で、4学部の連携でレドックス医療の研究拠点として大学のブランディングを目指します。

一方、歯学部はこれまで文科省の戦略的研究基盤形成支援事業に採択されて重点研究を進めてきましたが、現在は「次世代型顎口腔組織再生医療」と「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の2つのプロジェクトを進めています。前者は最終年度、後者は3年目に入っています。両プロジェクトともに、成果がでるように最後まで宜しくお願いいたします。

また、現在本学には腫瘍分子生物学研究所、臨床薬理研究所、発達障害医療研究所、スポーツ運動科

学研究所の4つの研究所があり、学部の壁を越えた研究を推進しています。東京オリンピック・パラリンピックの開催を迎えて、スポーツ運動科学への関心が高まっています。これまで顎関節症治療学部門の船登先生が、スポーツ歯科の担当として他の兼任教員とともにスポーツ運動科学研究所の研究に従事していましたが、4月からは船登先生が正式にスポーツ運動科学研究所教授として口腔機能と全身の身体機能との関わりほかの研究を推進する予定です。

以上のように、本年も医系総合大学の環境を生かして歯学部から研究の一層の推進を図りましょう。西年ですので、大きく羽ばたきたいと思います。関係者のご指導・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

文部科学省「平成28年度 私立大学研究ブランディング事業」に採択されました

研究活動委員会 上條竜太郎

文部科学省は私立大学を対象として、「私立大学研究ブランディング事業」をスタートさせ、昨年8月に公募がありました。本事業は、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学を重点的に支援するものです。本学は、本事業に見事採択されました。応募私立大学約200校中で採択校は40校でした。また、歯科大学・歯学部を擁する大学(計17校)では唯一の採択でした。事業名は「医系総合大学の実績を基盤とした生体内レドックス制御機構解明と臨床応用—健康長寿に貢献する大学創成」です。本事業の採択を受けて、PDCA(Plan-Do-Check-Act)型の学長統括体制のもと全学的な研究組織を構築し、生活習慣病における生体内レドックスの機能を解明、その成果の健康長寿医療への応用を図ります。本事業を通じて、レドックス医療研究拠点としての大学ブランドの創成を目指します。なお、本事業の研究期間は5か年で、その間文部科学省より補助金の交付を受けます。詳細は、本学ホームページをご覧ください。

<http://www10.showa-u.ac.jp/~branding/>

認定医・専門医取得

広報委員長 中村雅典

- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
小川 綾野(口腔衛生学部門)
浅見 拓哉(口腔衛生学部門)

D5三大学学生交流が開催されました

高齢者歯科学講座 佐藤裕二

文科省 IT 連携事業も最終年度となり、教員同士の連携だけではなく、学生間の交流を深めるために、昨年度から SKYPE を用いた学生交流が行われています。

三連携大学(北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学)は、同じ IT 教材を使用して学んでいますが、5年生ではそれぞれが地域性に応じた特色のある臨床実習を行っています。この体験を共有することで、学生の視野を広げることがねらいです。

事前に各大学学生の発表ファイルをサーバーにあげておき、事前に関連し、WEB 掲示板で学生同士の質疑応答が行われました。

1月12日(木)の夕方から、歯科病院臨床講堂で各大学の発表と質疑応答が SKYPE を通じて、1時間半にわたって、北海道医療大学の越野寿教授の司会で行われました。今回から、D5学生全員に参加を呼びかけたところ、20名以上の参加がありました。

北海道医療大学では、高機能患者ロボット、相互実習、訪問診療、施設実習、開業医実習、病院実習などの多様な実習が組み合わされていることが特徴でした。

岩手医科大学では、介護体験実習、地域医療体験実習、摂食嚥下リハビリ実習に加えて、充実した診療参加型実習が特徴でした。

本学では、高齢者歯科臨床実習の他に、附属病院実習、口腔リハ科実習、高齢者施設実習(個人宅含む)、4学部連携チーム医療実習といった特徴を説明し、知識、技術、連携、心の重要性を強調した発表でした。

ネットワークの状態が不安定であったにもかかわらず、本学の学生たちはわかりやすく素晴らしい発表と、堂々とした質疑応答を行い、誇らしく思いました。発表・参加した学生だけではなく、教員もおおいに刺激を受け、連携することのメリットを改めて感じた交流会でした。

今回の学生交流にあたり、多くの教職員に大変にお世話になりました。ありがとうございます。



三大学学生交流で SKYPE 討論を行いました

歯学部5年 青木理紗, 大田千央, 長谷川絢子

昭和大学と北海道医療大学と岩手医科大学の5年生で「高齢者に関わる施設実習や地域医療についての実習」に関する交流会を行いました。臨床実習のスライドをサーバーに公開し、事前にネット上での質疑応答を行い、1月12日(木)17:30からプレゼンを行い、三大学の学生間で意見交換をしました。これは、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」の一環です。

私達は1~4年までの基礎実習の内容に加え、5年生での高齢者歯科外来、施設実習、さらに附属病院や PBL 実習の内容や感想を発表しました。特に学部連携の PBL 実習は昭和大学が独自に行なっていることもあり、他大学から様々な質問や意見が寄せられました。

今回の発表を通して、5年生の臨床実習で4年生までの基礎実習の意義や目的を再確認すると同時に、実際に患者さんと接することで今まで学習したことの知識と理解を深めることができました。また、それぞれが思い描く将来の歯科医師像を明確にすることもできました。

他大学の超高齢社会に対する取り組みについての発表を聞き、それぞれの大学が行なっている臨床実習の特色や高齢者歯科実習の概要を垣間見ることができ、よい刺激になりました。

また、昭和大学の代表として発表するという貴重な経験をさせていただき、自身の成長に繋がったと同時に大きな自信となりました。

最後になりましたが、佐藤教授、片岡教授をはじめ、ご指導していただいた先生方に厚く御礼申し上げます。



マダガスカル医療報告会が行われました

歯科矯正学講座 中納治久

平成28年12月22日(木)、昭和大学臨床講堂で平成28年度昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力報告会が開催されました。当日は、久光正医学部長、小口勝司理事長、紀伊國献三笹川記念保健協力財団会長、小出良平学長、宮崎隆国際交流センター長のご挨拶と共に、医療協力活動報告が行われました。活動の概要は、団長である医学部形成外科学講座 土佐泰祥准教授からマダガスカルの紹介や活動の成果が具体的に報告され、その後、参加メンバーから概要説明がありました。さらに懇親会では、このプロジェクトの発起人である曾野綾子女史から、本プロジェクトが計画された経緯が説明されました。

私は、1)マダガスカルの口唇口蓋裂診療における歯科的アプローチと2)マダガスカル唯一のマジェンガ大学歯学部との学部間提携について報告しました。1)に関しては、①現地で歯みがきの大切さ、手術前後の口腔ケア指導、②手術前のお口の中の型取り、写真撮影、③同行した学生に対する教育を行いました。特に①では、マダガスカル出身の形成外科留学生NIRINA MANDRANO先生と相談し、事前に「手術前後の口腔ケア指導」と「手術に際しての医科的な注意事項」のポスターとリーフレットを作成しました。現地では手術を行う本人と家族を対象に、ポスターを用いて説明を行った上で、入院時にリーフレットを渡して術前指導を行いました。マダガスカルでは手洗い、歯みがきの習慣が無いので、口腔ケア指導は難しいだろうと言われていましたが、純真な国民性からか、熱心に話を聞き、歯みがきを実践していたように思います。日々の口腔清掃は、口唇・口蓋形成術における感染の危険性を低下させます。早くから歯みがき習慣を指導する意義は高いと考えられました。2)に関しては、①マジェンガ大学を訪問し、歯学部の学生と研修医に対して口唇口蓋裂の矯正治療に関して講義を行い、②歯学部間提携の交渉、さらに、③昭和大学歯科病院矯正歯科への留学生受け入れについて説明を行いました。この仕事は非常に困難を極めました。関係各位の事前の努力により、渡航直前にマジェンガ大学歯学部を訪問し講義を行う事が決定しました。



【マジェンガ大学での講義】

平成28年10月12日(水)、アンツィラベのアベ・マリアクリニックから陸路で759Km、1泊2日で国際交流センターの三浦氏と共にマジェンガ大学に向かいました。マジェンガ大学歯学部は1977年創立で来年度40周年を迎える歴史があり、卒業生は1,333人です。平成28年10月13日(木)、マジェンガ大学歯学部病院に到着し、病院見学の後、矯正歯科の講演を行いました。講義後は学長の RAKOTOARIVONY ANDRIANONY EMMANUEL 教授を訪問しました。驚いた事にマジェンガ大学は昭和大学歯学部との学部間提携に積極的に提携文書(案)を預かりました。マジェンガ大学との歯学部間提携が締結されればアジア初です。



【マジェンガ大学学長】

さらに朗報なのは、アベ・マリアクリニックがあるアンツィラベの歯科医師会長である RAKOTOHARINVO HERY-ZO 先生(36歳)が、平成29年4月1日から昭和大学歯科病院矯正歯科に1年間留学することが決定したことです。HERY-ZO 先生は、アベ・マリアクリニックの口唇口蓋裂治療を見学した経験を持ち、矯正治療に非常に興味があるため適任です。口唇口蓋裂治療は集学的なチーム医療が必要で、口唇・口蓋形成術を施行したら終わりではありません。咀嚼・発音・審美障害等の改善のため矯正治療が必要です。しかし、矯正治療は手術と異なり長期の通院加療が必要なので、年に1回医療協力を行うだけでは解決が難しい。そこで、矯正歯科で行える最適な医療協力は、現地で活躍できる矯正歯科医を育成・教育することであると考えました。



【中央が HERY-ZO 先生です】

今回、初めて昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力に参加しましたが、今まで経験したことのない世界を見聞きし、困難な課題に挑戦できたことは貴重な財産となりました。このような経験をさせて頂いた関係各位に感謝したいと思います。今後は、マダガスカルにおける歯科医療、矯正歯科医療の発展に寄与するため、更に留学生を誘致し、長期間に及ぶ矯正歯科治療を現地で提供出来るように教育で貢献したいと考えています。

3年生臨床シナリオ・学部連携 PBL が実施されました

歯学教育学部門 片岡竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人の養成」をキーワードとして、4学部連携教育を推進しています。4学部が連携して臨床的なシナリオを用いる「臨床シナリオ・学部連携 PBL」が平成28年12月2日(金)、8日(木)、13日(火)に旗の台キャンパスと横浜キャンパスで医歯薬学部3年生、保健医療学部2年生の計600名が参加して行われました。

2012年に中央教育審議会にて「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を養成する大学へ」の中で政策として提言された「アクティブラーニング」は大学のみならず小学校、中学校、高校でも推進されています。自ら問題を発見し、解決策を見出し実践できる力を養成する能動的学修のことで、「答えのない問題に取り組むための学修」です。

本学部連携PBLはこのアクティブラーニングを身につけるための学修で、「患者・家族の問題は何か」「プロブレムマップを用いて問題を整理する」「あやふやなこと、わからないことを学習項目とする」「患者家族に対する治療ケアプランを提案する＝問題を解決する」という流れを実践することで、「クリティカルシンキング」能力を身につけます。4学部6学科の異なる視点で患者・家族の問題に取り組む、その対応策を考える事で、通常の講義で関節りウマチを学ぶのとは異なった次元で、理解が進んだのではないかと思います。また、他学部の学生の知識やものとのとらえ方などについても実感をもって学べたのではないかと思います。

学生は1年次に富士吉田で学部連携PBLを経験していますが、お互いに2年間の成長を驚き、専門的知識を身につけた仲間を尊敬しあう場面が多くみられました。さらに、各グループで学部(職種)の代表として、責任を持って発言することの重要性に気づき、医療人としての自覚が生まれたという声も多く聞かれました。発表会ではその場で発表者が指名されましたが、原稿を見ずに自分の言葉で発表できた学生も少なからずいました。

是非PBLを通じて、患者さんの全身状態のみならず社会的な背景も考慮した上で、他の医療職と協働してより

よい医療が提供できる歯科医師になってもらいたいと思います。

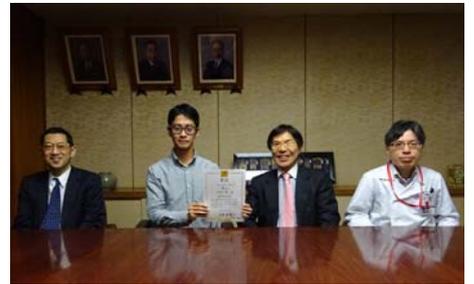


沖縄100キロマラソン29歳以下で1位になりました

歯学部2年 宮本 聖

平成28年12月18日に沖縄県で開催された第1回沖縄100Kmウルトラマラソンに参加しました。記録は9時間46分30秒で、270人中20位、一般男子29歳以下の部では1位でした。気候も良く、景色を楽しみながら走ることができました。スタートから60Km過ぎまでは順調でしたが、途中歩いてしまい90Km地点で大学生に追いつかれてしまいました。大変でしたがそこから並走し、ラスト1Kmでスパートをかけ逃げ切ることができました。今回は4回目の100Kmで、少しずつ自分に合った走り方や練習法がわかってきました。

次回は、平成29年4月23日に開催されるチャレンジ富士五湖ウルトラマラソン118Kmに参加します。学業と並行してより良い記録が残せるように精一杯努力したいと考えています。



行事予定

広報委員長 中村雅典

- 2月4日(土)・5日(日):第110回歯科医師国家試験
- 2月18日(土):大学院歯学研究科春季Ⅱ期選抜入試
- 2月19日(日):D4 共用試験OSCE本試験
- 2月24日(金):D4 共用試験CBT再試験
- 2月25日(土):選抜Ⅱ期・センター利用Ⅱ期入試
- 3月1日(水):新D2 オリエンテーション
- 3月6日(月):新D2 防災訓練
- 3月9日(木):卒業式
- 3月9日(木):D5 iOSCA本試験
- 3月17日(金):大学院修了式
- 3月17日(金):歯科医師国家試験合格発表

編集後記

口腔解剖学講座 野中直子

大学は、入試・定期試験・進級試験の時期になり、診療・研究・教育をしながらの忙しい時期になります。寒さも増してきましたので、体調管理にはお気を付けいただき、今年も頑張ってお参りしましょう。

最後になりましたが、原稿執筆にご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。

昭和大学にとりまして良い年になりますように！

